

## クウェート国電力水省（MEW）向け配水管理運営研修

（一財）中東協力センターは、2014年11月17日（月）から同11月28日（金）まで約2週間の日程で、クウェート国電力水省（以下 MEW）向けに、「配水管理運営」のテーマで研修を実施致しました。同研修は、東京水道インターナショナル株式会社への研修委託契約の下、多くの水道事業関係者のご協力を得て実現したものです。

（一財）中東協力センターは、クウェート国 MEW 向けの水関連研修では、昨年度も「造水技術」というテーマで研修生受け入れ事業を実施しております。今般の研修は、昨年行った同研修実績が評価され、再度 MEW 側から研修生受入れの依頼を受けて実施したものです。

今回の研修では、クウェート国で稼働している複数の配水施設等で活躍している 10 名の技術者を研修生として受け入れました。研修生の年齢は 30 代前半から 40 代前半という、まさにこれからのクウェート国の水道事業を背負って立つ人材を受け入れる結果となりました。

研修では、「日本の水道」、「東京の水道」に始まり、配水施設の概論、ポンプに対する概論、管路設計、GIS による配水施設の図面管理、配水に関する危機管理実際の運転・管理、無収水及び漏水防止対策について、山村尊房氏（元厚生省課長）をはじめとし、東京水道サービス（株）、（株）ジオプラン、フジテコム（株）ならびに東京水道インターナショナル（株）の経験豊富な講師陣による座学を行いました。また、施設視察では東京都水道局の金町浄水場・水運用センター、水質センターなどでオゾン処理や総合的な配水コントロール、水質検査などの最先端技術を学びました。株式会社クボタ・枚方製造所では、配水の鍵となるポンプ、バルブ等の設計・製造について学びました。更に、同社の京葉工場（船橋）において配水管の主要材質であるダクタイル鋳鉄管の特性と製造を学びました。

滞在日程 2 週間弱のうち、土日を除く研修日数は 10 日間。この中で施設見学を含めた授業コマ数は 25。基本的にクルマ社会のクウェートから出てきた研修生たちが、地下鉄・高速バス・飛行機・新幹線・在来線を駆使して地方行脚をこなし、東京では朝から夕方まで勉学に励むことを求めた同研修は、研修生たちにとっては多少キツイ行程であったにもかかわらず、講義中の真剣な受講姿勢と活発な質疑応答に鑑みて、とても有意義な時間が過ごせたであろうことは間違いありません。

研修の最終日に行われた研修評価ミーティングでは、研修生全員に予め記入をお願いしていたアンケートを回収・集計し、その結果を披露するとともに、研修生から口頭のフィードバックをもらう時間を設けました。その結果、今回の研修に対する全体的な評価では、10 人中 9 人が「とても満足」または「満足」と回答しています。個別的には、講義の内容、施設見学及び実習の内容、職員と通訳のサービスで高い評価となっており、研修の有効性を裏付けられました。アンケートの中には、「もっと詳細な内容の研修を実施して欲しい」との声もあったことから、今回の基礎研修を踏まえて、将来的に詳細研修の実施要請がある可能性もあります。

今後とも同様の研修を通して、クウェート国の水道技術の発展に寄与できる機会を設けていきたいと思いをします。

